

夏瀬の森

だより

令和七年一月二十五日 第一〇六号
田殿丹生神社 宮司 嶋田博文

あけましておめでとうございます

令和七年（紀元二六八五年）の乙巳（きのとみ）の年頭に当たり、謹んで皇室の弥栄と氏子崇敬者の皆様の御平安をお祈りいたします。今年は穏やかで清々しい三が日でした。

年末に総代さん方が境内十二ヶ所の手造りのしめ縄を掛け替え、社殿を装飾し、門松を作り、提灯を吊り、焚火の準備も整えて皆様方の初詣に備えてくださいました。敬神婦人会の



方々も掃いては降ってくる落ち葉と戦いながら、境内を清めてくださいました。

午前零時の時報とともにたくさんの方が氏神様に年始の御挨拶をされていました。参拝を終えた方々は大きな焚火の周りで談笑し、境内には明るい声が満ちていました。

近頃は国内外を問わずあまり見聞きしたくない出来事も多くありますが、この里がいつまでも平穏でありますことを心から願う年の始まりでした。

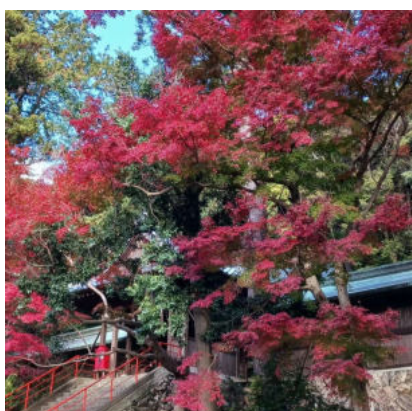


辰から巳へ



十二月十一日、紅葉で真っ赤に染まった夏瀬の森で冬祭（新嘗祭）を執り行いました。新穀とともに採りたて蜜柑をお供えし、新嘗のお祭の祝詞を奏上

いたしました。冬祭りに先立ち例年通り、絵馬も辰から巳に掛け替えました。絵馬は描き始めて今年で三十三枚目になります。なかなか上達しませんが毎年、郷内の平穏と発展を願って描いています。今回は辰から巳。脱皮しても中身が成長できていなければ意味がありません。竜頭蛇尾にならないように、もう一度気合を入れて新しい年を歩んで行きたく思います。これからどうぞよろしくお願いいたします



成人奉告祭

羽ばたけ田殿っ子

田殿丹生神社 成人奉告祭を執り行いました。有田川町の二十歳の集い終了後に田殿地区の青年たちが参拝し



てくださり、川口さんと一角さんが代表で玉串奉



奠を行い、奉告祭と記念撮影を行いました。大勢の家族の方や小学校時代の担任の先生も一緒にお参りくださり、長時間境内で賑やかに歓談してくれました。焦って脱皮することははない。まずはじっくり中身を育てましょう。がんばれ田殿っ子

火の用心の御祈禱 鎮火祭

師走朔日早暁。月並祭にあわせて鎮火祭を執り行いました。田殿地区を守ってください。共に、火の恵みに感謝し災いの無きよう御祈禱いたしました。お配りさせていただいた火の用心のお札は火の取り扱うところにお貼りください。



粥占い神事 充実の竹筒

竹筒と一緒に小豆粥を炊き、筒の中の小豆粥の入り具合で農作物の出来を占う粥占いを満月の十五日未明に行いました。



今年も筒にはお米、小豆共に十分入っており、有田みかんのブランド力をさらに盛り上げられそうです。



心のこもったお焚上げ



一月十五日、焚き上げ式を執り行いました。身や家を守ってください。お守りやお札、縁起ものなどを、御祈禱の上、総代さん方が時間をかけて丁寧に焚き上げてくださいました。

お正月とお餅

お正月の食べ物と言えはまずは「お餅」ですが、神様に捧げる鏡餅には収穫の感謝と豊作を祈る意味が込められています。このお餅を食べることで健康に生きられると考えられ、鑑開きのお餅を「歳玉」として分けていたのがお年玉の起源ともされています。お餅はお祭りの餅撒きや菱餅、桜餅、柏餅など節目節目の慶事には必須です。健康であることの願いが込められている日本の大切な食べ物です。



提灯のご奉納案内です



新年の三が日や夏祭、輪越しの際に境内や参道を照らす提灯は、三十年前に氏子の皆様方から奉納していただいたのですが、傷みもかなり目立ち使用できない提灯も増えてきました。今年の初詣の際に奉納をお申し出くださる方もおられました。さらに多くの方に神様への灯火のご奉納をいただくことができます。一月末現在、約五千円でお名前を記した提灯をご用意させていただきます。詳細は神社までお問い合わせください。

厄年とは

古くは厄年は晴れの年齢と考えられており、厄年になるといふのは社会で一定の地位を得ることを示していました。そのため、様々な災難に遭いやすい年でもあるので、心身を正常に保ち、言動を慎む必要があります。厄祓いにつきましてはお気軽にお尋ねください。

令和七年 厄年表

男性		
前厄 24歳 (平成14年生)	本厄 25歳 (平成15年生)	後厄 26歳 (平成16年生)
41歳 (昭和66年生)	42歳 (昭和67年生)	43歳 (昭和68年生)
60歳 (昭和41年生)	61歳 (昭和42年生)	62歳 (昭和43年生)
女性		
前厄 18歳 (平成6年生)	本厄 19歳 (平成7年生)	後厄 20歳 (平成8年生)
32歳 (平成2年生)	33歳 (平成3年生)	34歳 (平成4年生)
36歳 (平成6年生)	37歳 (平成7年生)	38歳 (平成8年生)
60歳 (昭和41年生)	61歳 (昭和42年生)	62歳 (昭和43年生)

※数え年は、誕生日前の場合は2歳、誕生日を迎えている場合は1歳を足して計算します。

ホームページ・Instagram・フェイスブックでも情報を発信しています。